

KIRAYAKA
FINANCIAL GROUP
DISCLOSURE
2006



シンボルマーク

Kirayaka Financial Group

信頼の正方形と活力の円形の融合する造形は、確かな経営基盤のもと、ダイナミックに成長し発展して行く姿を表すと同時に、「お客様と私たち」「身近さと先進性」の融合を表現しています。

そこから生まれる煌めきのクロスは、“お客様ベスト”の実践による感動の創出、そして共に分かち合う喜びを象徴しています。

鮮やかな きらやかレッド は、躍動感と情熱を、イエローからオレンジへのグラデーションは、未来感と個性を表現しています。

経営理念

Kirayaka Financial Group

基本理念

私たち「きらやかフィナンシャルグループ」は、地域に根ざす総合金融グループとして、“お客様ベスト”に挑戦し、共に煌やかな未来を創造してまいります。

私たちの目指す姿

心の通うベストコンサルティングバンク

経営目標

- 1 地域の活力を育み、発展に貢献する存在感のあるグループを目指します。
- 2 身近で親しみのある温かさ、先進的な商品・サービスで、お客様の感動を創出します。
- 3 高い志と倫理観に基づく確かな経営基盤を構築し、地域の信頼に応えます。
- 4 豊かな発想と躍動感溢れる行動で、“お客様ベスト”を実践し、共に輝きます。

Kirayaka Financial Group Disclosure 2006

CONTENTS

ごあいさつ	2
トップ対談	4
業績ハイライト	8
不良債権の状況	12
CSRへの取り組み	14
グループTOPIX	24

CORPORATE OUTLINE

企業概要

きらやかフィナンシャルグループ	
概要	26
ネットワーク	28
店舗一覧	29
店舗外ATM	32
殖産銀行	
概要	34
業務のご案内	37
商品・サービスのご案内	38
主な手数料	45
山形しあわせ銀行	
概要	46
業務のご案内	49
商品・サービスのご案内	50
主な手数料	56

FINANCIAL MATERIAL

財務資料

きらやかホールディングス	58
殖産銀行	65
山形しあわせ銀行	87
資本・株式の状況	109
開示項目一覧	110



いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

ごあいさつ

Kirayaka Financial Group

皆様には、平素より『きらやかフィナンシャルグループ』をお引き立て頂きまして、誠に有難うございます。

おかげさまで、このたび当社は第1期の決算を迎えました。ここに、きらやかフィナンシャルグループとして初めてのディスクロージャー誌をお届けいたします。ご覧頂き、当社グループをより一層ご理解頂ければ幸いに存じます。

さて、殖産銀行と山形しあわせ銀行は、平成16年10月の経営統合合意の発表以来、「相互信頼と対等の精神に基づき、常にお客様のため、地域のために何がベストかだけを判断基準として新しい地域金融機関を創造して行く」という共通理念のもと、経営統合・新銀行設立に向けて鋭意努力を重ねて参りました。

昨年10月、おかげさまで予定通りに両行の完全親会社となる持株会社『株式会社きらやかホールディングス』を設立し、『きらやかフィナンシャルグループ』として、経営統合体制の第一歩を踏み出すことが出来ました。

現在は、来年の『きらやか銀行』の設立に向け、両行が一体となり合併準備を順調に進めているところでございます。

私たちはこの統合により、“お客様ベスト”を合言葉に、私たちの目指す「身近さ・温かさ・面倒見の良さ」と「先進性・専門性・未来性」、更に「安定した経営基盤」を併せ持つ総合金融グループを創造し、お客様方のご期待に添えるよう誠心誠意努力して参る所存でございます。

今後とも、『きらやかフィナンシャルグループ』各社に対しまして、より一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年7月

株式会社きらやかホールディングス

代表取締役会長

長谷川 憲治

代表取締役社長

澤井 誠介



代表取締役会長
長谷川 憲治

代表取締役社長
澤井 誠介



いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

トップ対談

Kirayaka Financial Group

はじめに

澤井 6月28日、「きらやかホールディングス」の第1回定時株主総会を無事終了することができました。昨年10月3日、お客様方・株主の方々の力強いご支援に支えられ、共同持株会社である「株式会社きらやかホールディングス」を設立し、このたび第1期の決算等についてご承認頂いた訳ですが、皆様方のご支持とご支援に大変感謝しています。

長谷川 本当に、感謝の気持ちで一杯ですね。そして同時に、責任の重さに身の引き締まる思いもしています。経営統合の発表以来、多くの祝福や励ましの言葉を頂いていますが、銀行同士の合併が近づくにつれ、皆様のご期待に何としてもお応えしたい、という気持ちが日増しに大きくなっています。

合併準備の進捗状況

澤井 合併準備作業も概ね予定通りのスケジュールで進んでいますし、平成19年4月1日には、いよいよ「きらやか銀行」が誕生する予定です。

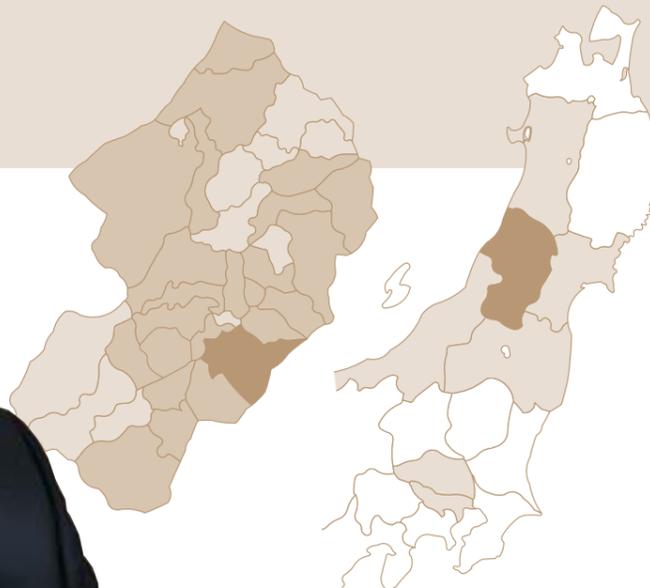
長谷川 統合作業が順調に進み総論から各論に入ったところで、両行の文化や考え方の相違点が分かってきた面もありますが、それは当然予想された事です。準備を進めている各部会において、十分に議論を重ね最良の結論を導き出すことが、真の相互理解・本当の融和の為には不可欠なプロセスと言えるのではないのでしょうか。

澤井 その通りですね。大事なことは殖産銀行のため、山形しあわせ銀行のためというのではなく、きらやか銀行にとってベストの選択を大前提に、大いに議論すべきだと思います。

また、システムや商品の統一、規程の作成といった実務面の統合作業と並行して、両行合同の業績表彰式の開催や、同一地域の支店間の交流を積極的に進めてきましたよね。

長谷川 新しい文化や人材と出会い、対話することにより、新たな刺激や新しいダイナミズムが生まれてきていると、強く感じます。

株主の皆様やお客様方の目からは、合併作業の進捗状況が見えにくいかもしれませんが、順調に進んでおりますのでご安心頂きたいと思います。



株式会社きらやかホールディングス
代表取締役会長
長谷川 憲治

【経営統合の流れ】

第1ステップ(持株会社の設立)平成17年10月
平成17年10月、殖産銀行と山形しあわせ銀行は、共同持株会社「株式会社きらやかホールディングス」を設立いたしました。



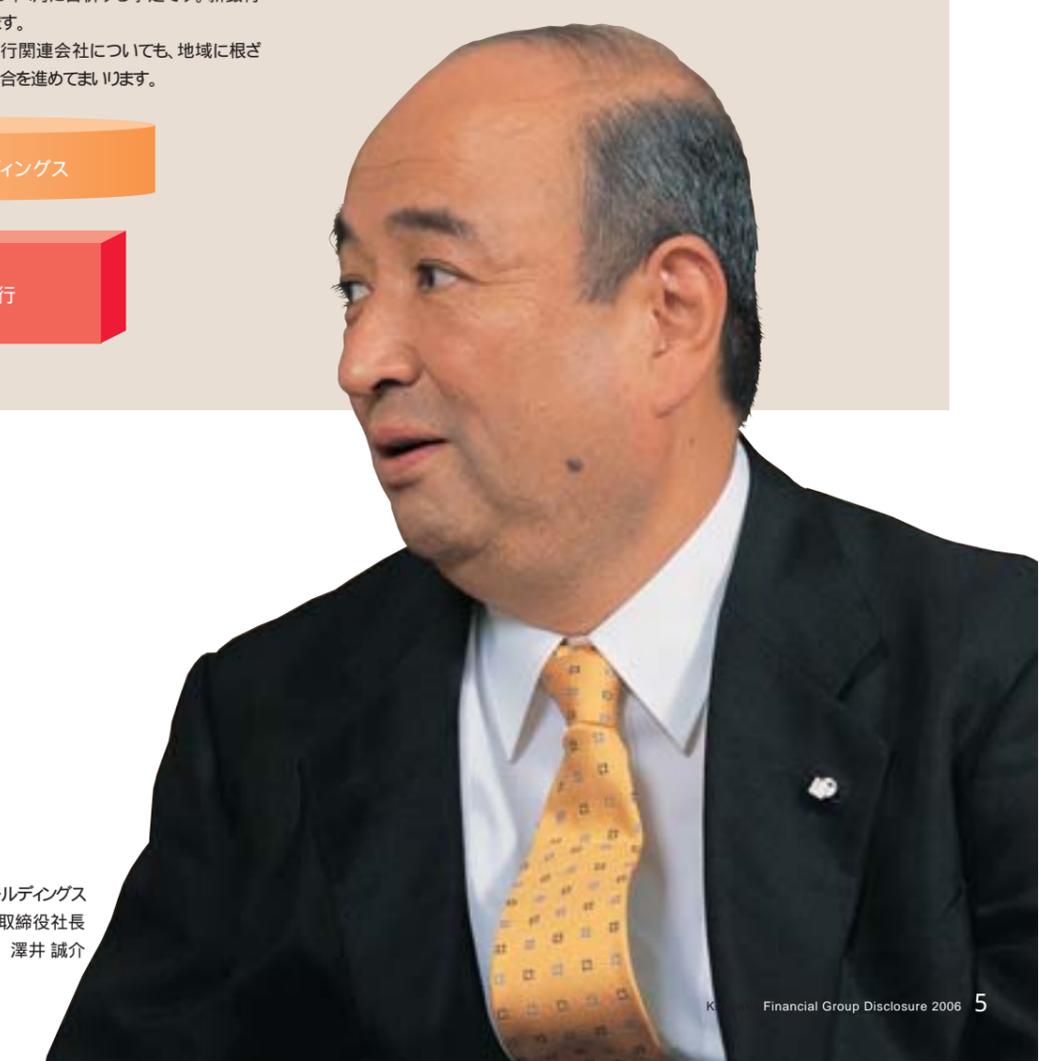
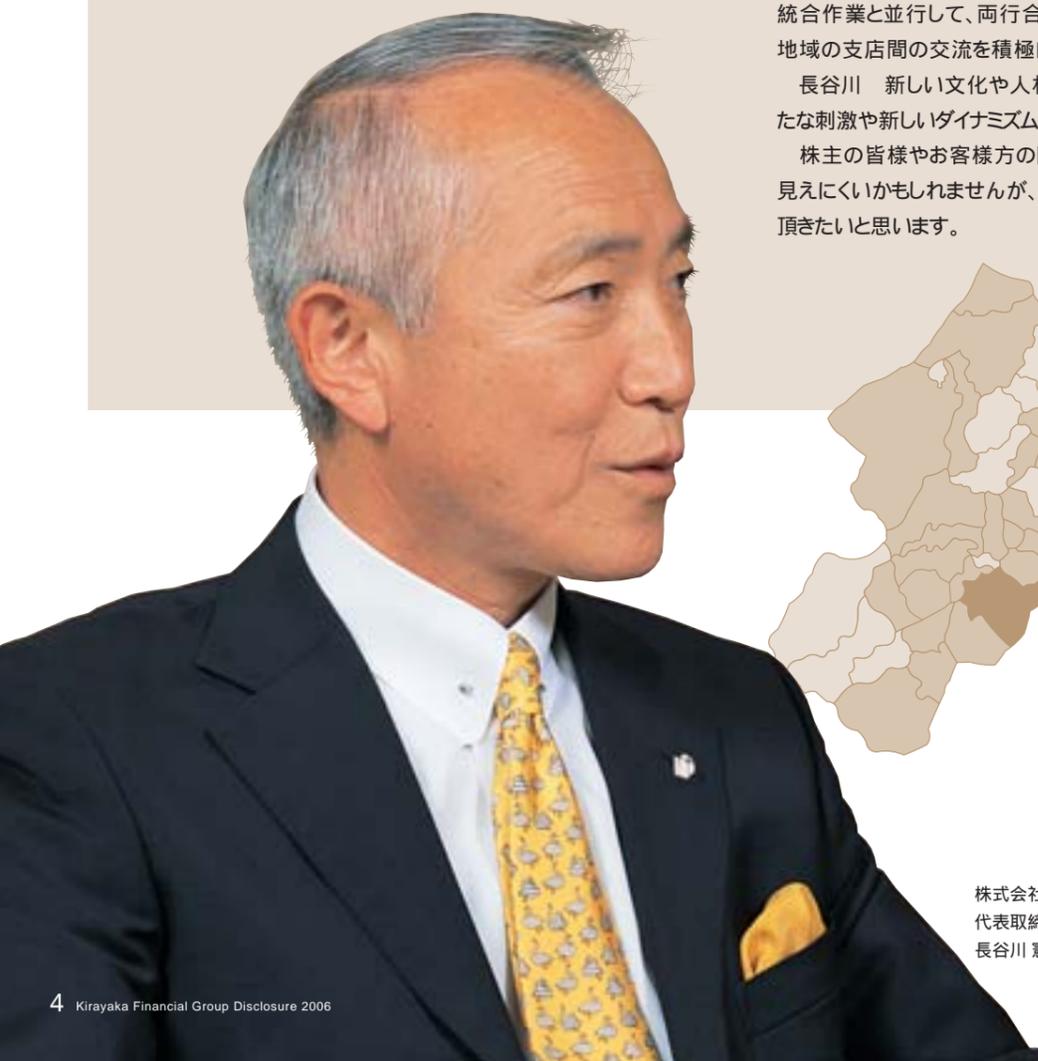
第2ステップ(銀行合併)平成19年4月予定
殖産銀行と山形しあわせ銀行は、平成19年4月に合併する予定です。新銀行名は、「きらやか銀行」と決定しております。
また、併せて、ホールディングス傘下の両行関連会社についても、地域に根ざしたより総合的な金融グループを目指し、統合を進めてまいります。



きらやか銀行の目指す姿

長谷川 新銀行は東北で最大規模の第二地銀になりますが、規模の拡大が目的ではありません。きらやか銀行の目指す姿は『心の通うベストコンサルティングバンク』です。『心の通う』銀行とは、「身近で、温かく、面倒見の良い銀行」という意味を込めている訳ですが、私は、これこそが両行の共通点であり、我々のDNAだと思っています。

澤井 その通りですね。両行がこれまで目指してきた姿は「大手行が玄関から行くな、我々は勝手口で話をし、身近な相談相手となってお客様のお役に立てる銀行」と表現できるのではないのでしょうか。きらやか銀行になっても、その姿勢は絶対に変わることはありません。





いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

トップ対談

Kirayaka Financial Group

長谷川 全く同感です。そして、『ベストコンサルティングバンク』が意味するところは、「高度で先進的なノウハウ・商品・サービスをご提供できる銀行」です。

両行のノウハウや人材を有機的に結合する事や、人的余裕の創出によるスペシャリストの配置、また先進他行等からの高度で先進的なノウハウ・商品・サービスを積極的に取り入れる事等により、それらをご提供できる銀行を創っていきたくと思っています。しかも、銀行の理論での商品・サービスのご提供ではなく、お客様の様々なニーズに複合的なご提案をしていきたいと考えています。

澤井 まさに「お客様」の視点・立場でのご提案をしていくということですね。「お金を貸す前に知恵を貸す」という理念を強力に打ち出していきたいと思います。そのためには、よりレベルの高いご提案を可能とするための本部機能の強化や、営業店行員のレベルアップに努めなければなりません。行員一人一人の研鑽が銀行そのもの。新銀行でも中小企業診断士、ISO審査員・審査員補等の資格取得を奨励して行員のレベルを上げ、取引先とのリレーションシップを強化できる人材を育てていきたいと思っています。そして、お客様方をこれまで以上に知り、お客様方の気持ちを理解しながら、そのご要望や企業内容等を分析・把握し、最良のコンサルティングができる銀行を創っていきたくいですね。

長谷川 そうですね。そして同時に、効率化の推進を図り経営基盤を一層強化していきます。両行の業務内容は殆ど共通ですから、システムや本部部門の統一化が可能ですし、両行の営業地域がほぼ共通なことから、店舗の効率化も可能です。その一方で、お客様は殆ど重複しておりませんから、約2倍の営業基盤になるということです。これは、極めて効果の大きい合併であると思っています。

澤井 店舗の統廃合については、お客様からよくご質問を頂きますよね。現在の店舗網を見ると、同一地域内で重複しているため、統合の余地の多い事が両行合併のメリットでもあります。現在の118店舗を80店舗程度まで統合したいと考えています。しかし、極力お客様の利便性に配慮しながら作業を進めてまいりますので、ご理解をお願いしたいですね。

長谷川 確かに全体の店舗数は減少しますが、各行単独の店舗数と比較すると5割ほど増えることになりますから、利便性向上の一面もあると考えています。

澤井 また、効率化の推進により人的・経費的余裕が創出されますから、今後成長が見込まれる分野や地域へ戦略的に人材等を投資することも可能になります。経営基盤を強化し、より一層安心してお取引頂ける銀行を目指していきます。そして、広範囲な営業基盤をもつことで、ビジネスマッチングやM&Aなどのサービスを積極化させたいと考えています。

『心の通うベストコンサルティングバンク』を目指すということは、この合併により「身近さ・温かさ・面倒見の良さ」と「高度な先進性」、そして「安定した経営基盤」を併せ持つ最良の地域金融機関を目指すということに他なりません。

「きらやかフィナンシャルグループ」共通の商品・サービスのご提供

澤井 (株)きらやかホールディングスの設立以降、「きらやかフィナンシャルグループ」として両行共通の商品・サービスをご提供してきました。

昨年10月1日より両行本支店間の振込み手数料を同一銀行化しましたし、懸賞付定期預金「きらやか」の取り扱いや、投資信託商品「きらやかグローバル好配当株式オープン」の発売もいたしました。

長谷川 「きらやかローンキャンペーン」では、金利優遇の教育ローン・マイカーローンを発売しました。2月から5月という、お客様方のご利用ニーズの高い季節に合わせてキャンペーンを展開し、ご好評を頂きました。また、4月14日より、優遇金利をつけた「きらやか感謝預金キャンペーン」を展開していますが、お客様から大変ご好評を頂いています。

今後も銀行の合併に先駆け、お客様に喜んで頂ける商品・サービスをご提供していきたいですね。

最後に

澤井 殖産銀行と山形しあわせ銀行は、経営統合の合意と発表以来、「相互信頼と対等の精神に基づき、常にお客様のため、地域のために、何がベストかだけを判断基準として新しい地域金融機関を創造して行く」という共通理念のもと、経営統合・新銀行設立に向けて鋭意努力を重ねてきました。

6月16日には、両行の関連会社でクレジットカード業務を営む殖銀カードサービス(株)としあわせユーシーカード(株)を、きらやかホールディングスの完全子会社としましたし、両社の将来的な合併も検討しています。また、9月1日には、リース業務を営むエコリース(株)としあわせファイナンス(株)を完全子会社化する予定で、その後の両社合併も検討しています。

銀行業務を中核とするグループ内の他業種について経営を一体化することにより、効果的かつ効率的な体制を実現し、一層のシナジー効果を発揮できるものと考えています。

長谷川 そして、私たち「きらやかフィナンシャルグループ」は、地域に根ざす総合金融グループとして、お客様の多様化する幅広い金融ニーズに迅速・確にお応えすることで、お客様方の生活や業容の安定拡大のお手伝いをし、ともに煌やかな未来を創造してまいりたいと考えております。

これまでの主なトピックス

- 平成16年10月 殖産銀行と山形しあわせ銀行が、「経営統合に関する基本合意書」締結
- 12月 両行のメンバーによる「経営統合委員会」が発足
- 平成17年 5月 新銀行の名称「きらやか銀行」と持株会社の名称「きらやかホールディングス」を発表
- 両行で「共同株式移転契約書」締結
- 6月 両行の定時株主総会で、株式移転による完全親会社設立を承認
- 7月 内閣総理大臣より、「銀行を子会社とする持株会社設立」の内認可を受ける
- 8月 両行合同総勢300名で、山形花笠祭りに参加
- 9月 「銀行を子会社とする持株会社設立」の本認可を受ける
- 10月 きらやかホールディングスが殖産銀行の東京証券取引所第二部上場を引き継ぎ上場
- 「きらやかホールディングス」設立
- 経営統合記念大商談会
- 「きらやかベストマッチ2005」を開催
- 平成18年 1月 「経営統合委員会」を発展的に改組し、「きらやか銀行設立委員会」を発足
- 4月 きらやかフィナンシャルグループとして、合同入行式を行う
- きらやかフィナンシャルグループの女性職員に統一の新制服を採用
- 6月 「殖銀カードサービス(株)」、「しあわせユーシーカード(株)」を、きらやかホールディングスの完全子会社化
- 「きらやかホールディングス」第1回定時株主総会開催



きらやかグローバル好配当株式オープン



きらやか感謝預金キャンペーン



きらやかホールディングスの新制服 (左)夏服と(右)冬服

dream & future
KIRAYAKA



いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

業績ハイライト

Kirayaka Financial Group

主要な経営指標

きらやかホールディングス単体		(金額単位：百万円)
		平成18年3月期
営業収益	817	
経常利益	636	
当期純利益	633	

きらやかホールディングス連結		(金額単位：百万円)
		平成18年3月期
連結経常収益	34,727	
連結経常利益	3,445	
連結当期純利益	1,412	
連結純資産額	42,137	
連結総資産額	1,280,079	
1株当たり純資産額	334.90円	
1株当たり当期純利益	11.22円	
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
連結自己資本比率(国内基準)	8.84%	

(注)1. 当社及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 2. 「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。
 3. 連結自己資本比率は、銀行法第52条の25の規定に基づく大蔵省告示に定められた算式に基づき作成しております。なお、当社は国内基準を採用しております。

営業の概況

収益の状況(きらやかホールディングス)
 当社における平成18年3月期の営業収益は、子銀行よりの配当、子銀行の経営管理料による収入により817百万円となりました。経常利益は636百万円、当期純利益は633百万円となりました。また、平成18年3月期の当社グループ全体の連結経常収益は34,727百万円、連結経常利益は3,445百万円、連結当期純利益は1,412百万円となりました。

収益の状況(両行単体合算)
 殖産銀行・山形しあわせ銀行両行の単体決算を合算しました経常収益は、投信・保険等の預かり資産販売手数料等の増加

により役務収益は増収となりましたが、資金運用利回りの低下により資金運用収益が減少しました結果、前期比343百万円減少の31,604百万円となりました。同経常利益につきましては、経費の節約と与信費用の減少により、前期比2,613百万円増加の2,653百万円となりました。同当期純利益につきましては、前期比1,313百万円増加の1,185百万円となりました。

また、銀行本来の業務による利益と言われますコア業務純益(両行単体合算)につきましては、役務利益は増加いたしました但し資金運用利回りの低下により資金利益が減少しました結果、前期比177百万円減少の4,895百万円となりました。

自己資本比率(きらやかホールディングス連結)
 当社グループの連結自己資本比率(国内基準)につきましては、本年3月に公募劣後社債を発行し調達いたしました資金を、両行に劣後ローンとして供与し自己資本の充実を行いました結果、連結自己資本比率は8.84%となりました。

預金+預かり資産・貸出金(両行単体合算)
 個人の金融資産運用の多様化に積極的に対応した結果、預金+預かり資産残高は前年末比418億円の増加となりました。また、貸出金残高につきましては、住宅ローンを中心とした消費者ローンが好調に推移しましたほか、法人向け融資にも積極的に対応した結果、前年末比60億円の増加となりました。

配当政策
 銀行持株会社としての公共性に鑑み、内部留保の充実による財務体質の強化を考慮し、配当を決定しております。なお、当事業年度の期末配当は、一株あたり2円50銭といたしました。

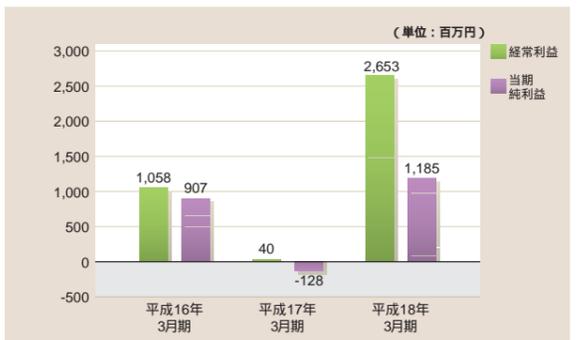
業績ハイライト / 両行合算

Shokusan Bank & Yamagata Shiwase Bank

コア業務純益の状況



経常利益・当期純利益の状況



預金+預かり資産の状況



貸出金の状況



経費の状況



自己資本比率の状況 / きらやかホールディングス(連結)



コア業務純益 | 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益の事を指します。

経常利益 | 「業務純益」から「株式売却損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。

当期純利益 | 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

自己資本比率 | 総資本に占める自己資本の割合を指し、銀行経営の健全性や信頼度を示す指標のひとつです。



いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

業績ハイライト / 殖産銀行

Shokusan Bank

業績ハイライト / 山形しあわせ銀行

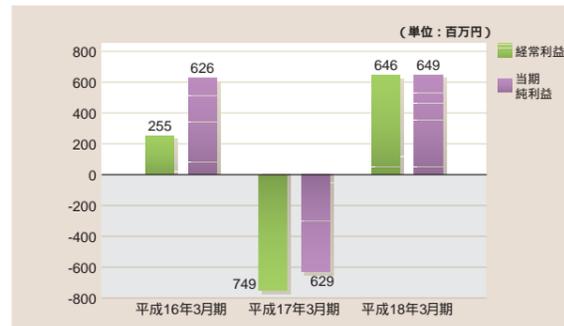
Yamagata Shiawase Bank

コア業務純益の状況



銀行本来の業務による利益と言われますコア業務純益は、投信・生保の窓販による手数料収益の増加や経費の削減により、前年比362百万円増加の2,704百万円となりました。

経常利益・当期純利益の状況



償却・引当を積極的に実施し2,178百万円の与信費用を計上いたしましたが、役員取引等収益並びに有価証券売却益の増加に加え、経費の削減に努めた結果、経常利益は646百万円、当期純利益は649百万円となりました。

コア業務純益の状況



貸出金利回りの低下を要因とした資金利益の減少により、コア業務純益は前年比539百万円の減少となりました。

経常利益・当期純利益の状況



預かり資産の売却による役務手数料の増加や株価上昇による株式売却益の確保に加え、経費の削減に努めた結果、経常利益は2,006百万円、当期純利益は536百万円となりました。

預金 + 預かり資産の状況



預金 + 預かり資産残高につきましては、個人の金融資産運用の多様化へ積極的に対応いたしました結果、前年末比210億円の増加となりました。

貸出金の状況



貸出金残高につきましては、個人向けの消費者ローンの増加に努めた結果、前年末比18億円の増加となりました。

預金 + 預かり資産の状況



預金 + 預かり資産残高につきましては、個人の金融資産運用の多様化へ積極的に対応いたしました結果、前年末比206億円の増加となりました。

貸出金の状況



貸出金残高につきましては、小口の事業性資金であるビジネスローン、アパートローン、個人向けの住宅関連ローン等が順調に推移したことにより、前年末比41億円の増加となりました。

経費の状況



人件費・物件費を中心とした経費につきましては、削減に努めており、毎年順調に減少しております。

自己資本比率の状況



きらやかホールディングスより劣後ローン60億円の調達を行い、自己資本の充実を図りました結果、単体自己資本比率は前期比 + 0.51%ポイントの8.07%となりました。

経費の状況



人件費・物件費の削減に努めた結果、前年比96百万円の減少となりました。

自己資本比率の状況



きらやかホールディングスより劣後ローン60億円の調達を行い、自己資本の充実を図りました結果、単体自己資本比率は前期比 + 1.45%ポイントの9.37%となりました。



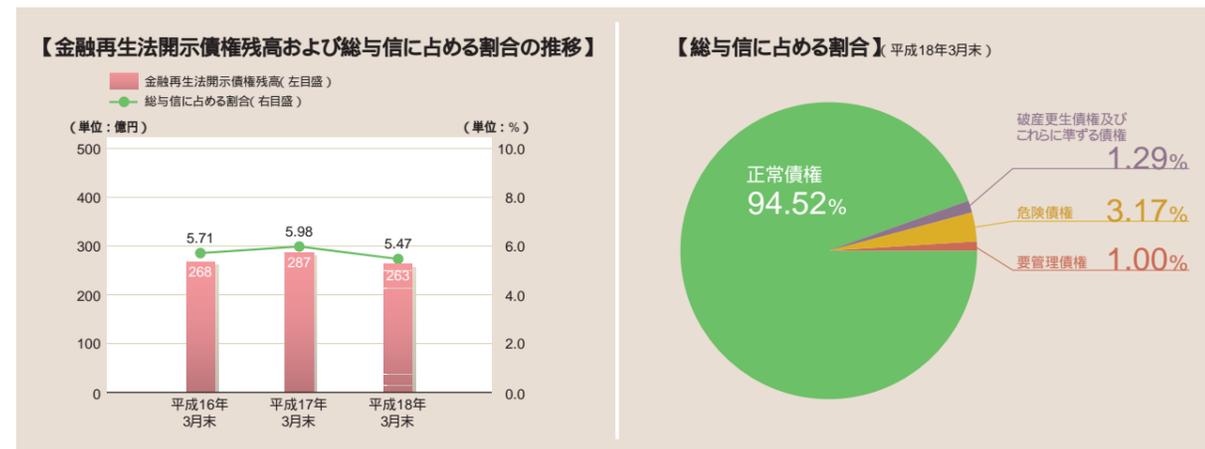
いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

不良債権の状況 / 殖産銀行

Shokusan Bank

金融再生法開示債権

平成18年3月末の金融再生法に基づく開示債権額は263億円で、前年比23億円の減少となりました。総与信に占める割合は5.47%となりました。また、これらの債権の75.54%につきましては貸倒引当金および担保・保証等により保全されています。今後も引き続き厳格な自己査定を実施するとともに、適正な基準により引当処理を行い、資産内容の健全化に努めてまいります。



保全状況

(金額単位：億円)

	債権額(A)	保全額(B)	担保保証等		貸倒引当金	保全率(B/A)
			担保保証等	貸倒引当金		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	62	62	52	9	100.00%	
危険債権	152	114	93	20	74.80%	
要管理債権	48	22	18	4	46.30%	
合計	263	199	164	34	75.54%	

破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

危険債権 | 債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

要管理債権 | 3ヶ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。



金融再生法開示債権263億円のうち、199億円が貸倒引当金や担保・保証等により保全されています。(保全率75.54%)

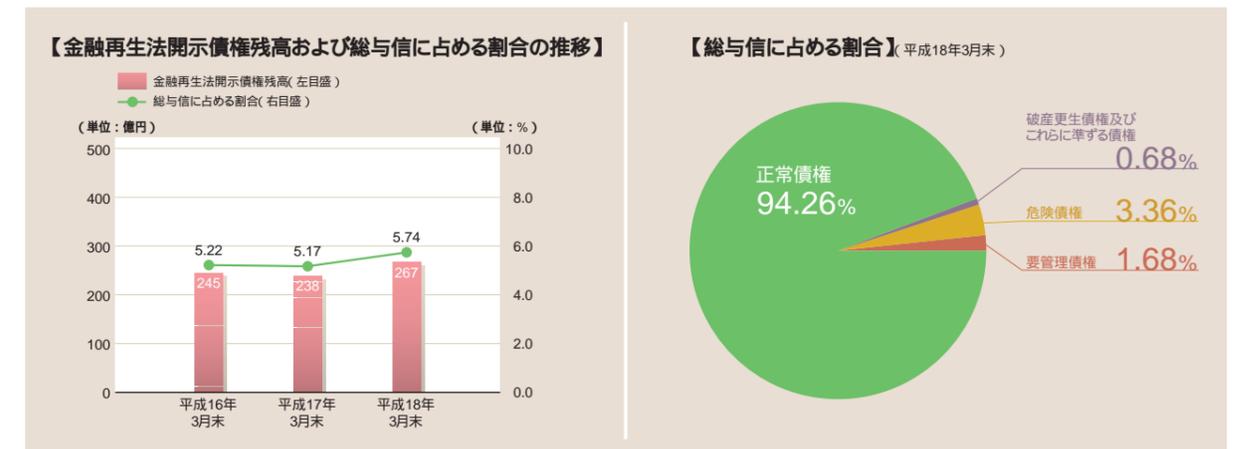
また、保全されていない部分64億円につきましても、自己資本191億円により十分にカバーされています。

不良債権の状況 / 山形しあわせ銀行

Yamagata Shiwase Bank

金融再生法開示債権

平成18年3月末の金融再生法に基づく開示債権額は267億円で前年比28億円の増加となりましたが、総与信に占める割合は5.74%と、平成17年9月末の第二地銀平均5.84%を下回る水準となっております。また、これらの債権の70.19%につきましては貸倒引当金および担保・保証等により保全されています。今後も引き続き厳格な自己査定を実施するとともに、適正な基準により引当処理を行い、資産内容の健全化に努めてまいります。



保全状況

(金額単位：億円)

	債権額(A)	保全額(B)	担保保証等		貸倒引当金	保全率(B/A)
			担保保証等	貸倒引当金		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	31	31	22	9	100.00%	
危険債権	157	115	73	41	73.37%	
要管理債権	78	40	26	14	51.81%	
合計	267	187	122	65	70.19%	

破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

危険債権 | 債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

要管理債権 | 3ヶ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。



金融再生法開示債権267億円のうち、187億円が貸倒引当金や担保・保証等により保全されています。(保全率70.19%)

また、保全されていない部分79億円につきましても、自己資本229億円により十分にカバーされています。



いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

CSRへの取組み

Kirayaka Financial Group

リスク管理態勢の強化について

私たち金融機関は、信用リスクを始めとして、市場関連リスクや流動性リスク、事務リスク、システムリスク、レピュテーション(風評)リスクなど、業務上様々なリスクを抱えて運営を行っております。また、金融の自由化によって収益機会が増加する一方でグローバル化や金融技術高度化の進展に伴って、その発生するリスクも複雑化かつ多様化してきているため、金融機関におけるリスク管理の重要性は従来にも増して高まってきております。

このような環境下、当グループでは、リスク管理を経営の最重要

課題であると考え、当社および子銀行にリスク管理部署を設置しております。持株会社である当社は、「グループリスク管理委員会」を開催し、グループ会社全体のリスクの把握や管理を一元的に行い、より監視機能を働かせたリスク管理の強化を図っております。

また、当グループでは、リスク管理規程を制定してリスクのモニタリング体制の整備に努めるとともに、経営の健全性の確保と収益力の向上を図るため、統一的な尺度によるリスク量の把握などリスク管理の高度化も進めており、統合的なリスク管理態勢の整備に向けた取組みを一層強化してまいります。

信用リスク管理

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化等により、資産の価値が減少ないし消失し損失を被るリスクをいいます。

当グループでは両子銀行が、審査管理体制として融資業務の営業推進部門と審査管理部門を分離し、審査の独立性と適切な相互牽制機能の確保に努めるとともに、行員の研修等を通じた審査能力の向上を継続的にを行い、適切なリスクコントロール体制の整備を図っております。

また、合わせてお取引先に対する適切なアドバイスによる経営支援を継続的に実施し、貸出資産の健全性の向上を図っております。

さらに、貸出資産の危険性の判定を行う「自己査定」を厳格に実施し、適切な償却・引当を行うとともに、お取引先の財務評価や定性評価を基にした「信用格付制度」を活用して、信用リスク管理の高度化に取り組んでおります。

市場関連リスク

市場関連リスクとは、金利、有価証券等の価格、為替等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、保有する資産の価値が変動し損失を被るリスクをいいます。

当グループでは両子銀行が、市場取引執行部門であるフロントオフィス、市場取引事務部門であるバックオフィス、およびリスク管理部門であるミドルオフィスの3部門による相互牽制体制を整備し、市場関連リスク管理体制の強化に努めております。

金融商品の高度化や金融商品の時価会計に伴ってより一層高まった「市場関連リスク」管理の重要性を十分認識して、リスクの計量化を含めたリスク管理の高度化に取り組んでおります。

流動性リスク

流動性リスクとは、財務内容の悪化等により必要な資金が確保できなくなり、資金繰りが困難となる場合や、資金の確保に通常より先着し高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被る資金繰りリスクや、市場の厚みが不十分なことから通常より先着し不利な価格での取引を余儀なくされることなどにより損失を被る市場流動性リスクをいいます。

当グループでは両子銀行が、日々の資金の運用、調達の状況の適切な管理を行い安定的な資金繰りを達成するとともに、状況に応じた流動性準備や資金調達手段の方法を定めるなど、流動性の確保に十分配慮した運営を行っております。

事務リスク

事務リスクとは、役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより損失を被るリスクをいいます。

金融の自由化の進展に伴い、銀行の業務や取り扱う金融商品が多様化・複雑化する中、事務の迅速性と正確性はますます重要になってきております。

当グループでは両子銀行が、お客様の利益を保護するとともにお客様の信頼を損なうことのないよう、規程の整備、営業店への研修や事務指導を通して堅確な事務処理体制の構築に努めております。

また、事故等の未然防止のため、本部や営業店に対する監査部門の内部監査や、本部や営業店における相互チェックのための店内検査を実施し、内部監査機能の整備・確立を図っております。

システムリスク

システムリスクとは、コンピュータシステムのダウン又は誤作動等、システムの不備等に伴い損失を被るリスク、さらにコンピュータが不正に使用されることにより損失を被るリスクをいいます。

当グループでは両子銀行が、コンピュータシステムの高い公共性と事故等による社会的影響を考慮し、管理規程等の整備をはじめとして適切なシステムの開発・運用体制の確立に積極的に取り組んでおります。お客様に安心してご利用いただける銀行を目指して、今後も適切な安全対策を実施してまいります。

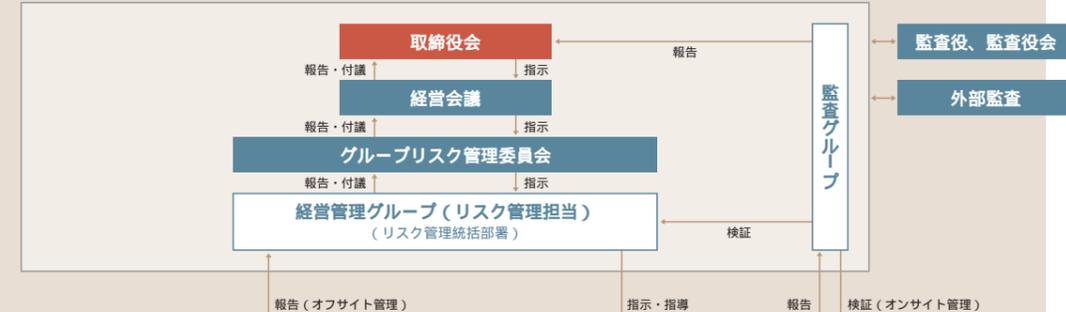
レピュテーションリスク

レピュテーションリスクとは、マーケットやお客様の間で当社グループの評判が悪化することにより、損失を被るリスクをいいます。

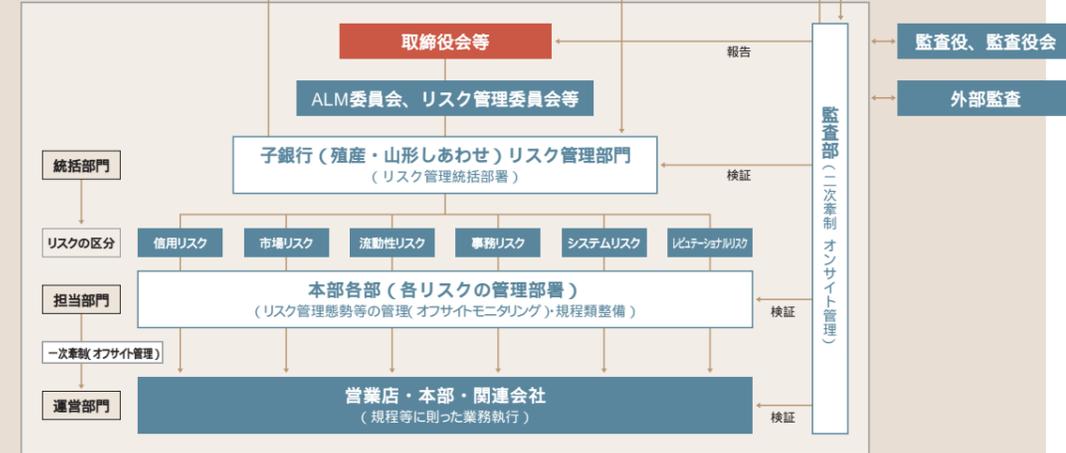
当グループでは両子銀行が、情報開示に関する適切な広報活動を通じて地域社会やお客様、株主の皆様との理解と信頼を得ることにより、レピュテーションリスクの発生防止に積極的に努めております。また、経営に重大な影響を及ぼすと思われる情報や事象について、報告体制を整備し、速やかに対策をとることのできるよう適切な管理を行っております。

【きらやかフィナンシャルグループのリスク管理態勢】

【きらやかホールディングス内部管理体制】



【子銀行内部管理体制】



(平成18年3月31日現在)

CSR(corporate social responsibility): 企業の社会的責任

法令遵守や利益貢献といった責任を果たすことと、地域や社会の顕在的・潜在的な要請に応えることといった企業の社会的責任のこと。具体的には、「適切な企業統治と情報開示」、「誠実な消費者対応」、「個人情報保護」、「地球環境への配慮」、「ボランティア活動支援などの社会貢献」、「地域社会への参加などの地域貢献」等があげられます。

ALM(Asset Liability Management)

●「資産負債の総合管理」を意味し、金利・為替などの市場動向を分析・予測し、市場性リスクの総量を定量的に把握したうえで、市場動向に合わせて資産と負債の構成をコントロールすることにより、収益の極大化および安定化をはかることをいいます。
●金利自由化の進展により、銀行の収益構造は、特に金利変動の影響をこれまで以上に受けやすくなっており、ALMの巧拙が銀行の収益力および安全性に大きな影響を及ぼすようになってきています。



いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

CSRへの取組み

Kirayaka Financial Group

コーポレートガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

現在当社の子会社である株式会社殖産銀行と株式会社山形しあわせ銀行は、経営統合により平成17年10月3日に銀行持株会社である当社を設立いたしました。

持株会社による一元的な経営管理体制とすることにより、統合効果の早期実現とグループ全体としての最適な経営戦略策定、経営資源配分等を実施してまいります。

将来的には、現在両銀行の傘下にありますカード会社・リース会社等の関連会社も当社の傘下とすることを視野に入れており、グループ会社全体の戦略・方針等の統一化を図るため、今後ともガバナンス体制をより強固なものとしてまいります。

また、子会社の株式会社殖産銀行と株式会社山形しあわせ銀行は、平成19年4月1日に合併を予定しており、システム統合や組織体制策定を始めとする合併準備作業については、当社が進捗管理を含めた指導・統制を行うことにより、万全の体制で順調に進めております。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

■会社の機能の基本説明

当社では、最高意思決定機関である株主総会、業務意思決定機関である取締役会の下に、持株会社としての機能を十分に発揮できるよう以下の組織体制を整えております。

取締役会の下には「経営会議」を設置し、グループ経営計画・方針等の具体的協議を行うとともに、取締役会で決定した方針等に基づいた子銀行の経営状況、執行状況について報告を受けるなど、グループ全体を把握する経営管理機能を担っております。

また、当社グループのリスクコントロール態勢については、当社においてモニタリングを実施するとともに「グループリスク管理委員会」を定期的に開催し、グループ全体のリスクについて適切な管理を行っております。

また、「グループ会社会議」では、関連会社を含めたグループ内の連携と調整・コントロールを行うなど、統合効果の早期実現に向けたガバナンスを強化いたしております。

さらに、当社グループの重要な経営課題のひとつと位置づけているコンプライアンスについては、「コンプライアンス委員会」を設け、グループ全体の法令遵守に係る事項を管理し、その態勢の整備に向けた指導・監督を強化いたしております。

(社内の機関・内部統制の関係については27ページをご覧ください。)

■2 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

① 取締役会

経営に関する重要な事項、方針及び業務の執行に関わる決定を行うとともに、経営・業務執行の監督機能も担っております。

取締役のうち7名は子銀行の取締役を兼職しており、取締役1名は子銀行の執行役員を兼職いたしております。

② 監査役会

常勤監査役は、経営会議・グループリスク委員会への出席により業務執行の実態把握に努めており、監査役は取締役会への出席や意見具申により、取締役の職務執行状況を監査しております。

常勤監査役1名、社外監査役3名を選任いたしております。

③ 経営会議

当社グループの経営計画・方針等の具体的協議を行うとともに、取締役会で決定した方針等に基づいた各会社の経営状況、執行状況について報告を受け、迅速かつ機動的な機能を果たしております。

取締役8名で構成し、これに常勤監査役が加わっております。

④ グループリスク管理委員会

当社グループの「健全性の確保」と「収益性の向上」を図ることを目的とし、グループの戦略目標を踏まえたリスク管理方針、グループに内在する各種リスクの状況の把握と評価、その他リスク管理に係る事項等を協議しております。

取締役社長を委員長とし、取締役全員、常勤監査役、経営管理グループマネージャー、ならびに子銀行のリスク管理部門担当部長等で構成しており、これに常勤監査役が加わっております。

⑤ グループ会社会議

当社グループの経営方針とグループ会社の経営戦略等の調整・徹底、経営に関する重要な情報を共有することを目的としております。

当社取締役会長、取締役社長(議長)、専務取締役、常務取締役、ならびに各グループ会社の代表取締役で構成し、当社グループ統括マネージャーならびに子銀行企画担当部長も加わっております。

⑥ コンプライアンス委員会

金融機関の持つ公共的使命に鑑み、法令や社会的規範等の逸脱を防止し、厳格な自己規律による信頼性を確保して、当社グループのコンプライアンス態勢を強固なものとするを目的としております。

取締役社長を委員長とし、取締役全員及び各グループの責任者で構成しており、これに常勤監査役が加わっております。

⑦ 業務遂行

上記機関及び委員会の下、経営管理グループ・総務グループ・監査グループがそれぞれの担当業務を遂行しております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査は、所管部署である監査グループ(現在人員2名)が、取締役会で承認された監査計画書(年度)に基づき、子銀行の監査部門と連携して、内部管理の状況に応じた頻度・深度を考慮しながら以下の通り実施いたしております。

当社内各グループの監査は当社監査グループが実施
子銀行の本部監査は当社監査グループと子銀行の監査部門が共同で実施
子銀行の営業店ならびに子銀行の子会社監査は子銀行の監査部門が実施し、当社監査グループはその内容についてモニタリング監査を実施

また、内部監査によるリスク管理態勢・コンプライアンス態勢・内部統制機能などの適切性・有効性の検証結果については、毎月取締役会に報告いたしております。

なお、子銀行の監査部門の現在人員は、株式会社殖産銀行が7名、株式会社山形しあわせ銀行が10名であります。

監査役は、監査役会監査計画書(年度)に基づき、当社監査グループ、子銀行監査部門からの報告聴取、会計監査人との意見交換、当社及び子銀行に対する業務監査や重要書類の閲覧・調査を行い、当社ならびに子銀行の内部管理態勢の検証を目的とした監査を実施いたしております。また、監査役は、取締役

会をはじめとした当社の重要な会議に出席し、取締役の職務執行の適法性と妥当性に対する監査を実施いたしております。

コンプライアンス態勢について

当社グループは、金融機関としての社会的責任と公共的使命を果たし地域社会における揺るぎない信用と信頼を確立するためには、法令・諸規則を遵守した公正な企業活動の遂行と、役員一人一人の確固たる倫理観と誠実さに基づいた公正な行動の実践が不可欠と考えております。

当社グループが「経営目標」の一つとして公表している「高い志と倫理観に基づく確かな経営基盤を構築し、地域の信頼に応えます。」は、コンプライアンス態勢を強化して高い企業倫理に基づいた公正な企業活動を行う決意を内外に表明したものであります。

具体的には、当社および子銀行にコンプライアンス統括部署を設置し、コンプライアンスを実践するための実践計画である「コンプライアンス・プログラム」を策定して定期的にその進捗管理を行っております。

また、当社および子銀行で、原則として月に一回「コンプライアンス委員会」を開催してコンプライアンスに関する諸協議を行い、コンプライアンス態勢の確立に向けての取組みを行っております。

【きらやかフィナンシャルグループのコンプライアンス態勢】

【きらやかホールディングス内部管理体制】



【子銀行内部管理体制】



(平成18年3月31日現在)



いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

CSRへの取り組み

Kirayaka Financial Group

金融商品に関する勧誘方針について

お客様への勧誘の指針として「金融商品に関する勧誘方針」を定め、お客様のニーズに合わせた営業活動を行っております。

殖産銀行の金融商品勧誘方針

当行は、次の5項目を遵守し、お客様に対して金融商品の適切な勧誘を行います。

- お客様の金融商品に対するご認識やご要望をお聞きし、お客様の立場に立った適切な商品をお勧めいたします。
- お客様のご判断と責任においてお取引いただくため、商品内容やリスク内容などの重要事項につきまして、十分なご理解をいただけるよう、説明に努めます。
- お客様から信頼して頂くことを第一とし、断定的判断に基づく説明や事実と異なる情報の提供など、お客様の誤解を招くような勧誘を行いません。
- 深夜や早朝などのお客様がご迷惑となる時間帯に、電話・訪問による勧誘は行いません。
- お客様に適切な金融商品を適切な方法でお勧めできますよう、常に商品知識の習得と行内ルールの整備に努めます。

以上の方針は、「金融商品の販売等に関する法律」(平成12年法律第101号)に基づく「勧誘方針」です。

山形しあわせ銀行の金融商品勧誘方針

当行は、次の5項目を遵守し、お客様に対して金融商品の適正な勧誘を行います。

- お客様お一人お一人に、適切な金融商品をお勧めします。
- お客様に商品内容やリスク内容など、重要な事項を十分ご理解いただけるよう、説明させていただきます。
- お客様に正確な情報を提供し、誤解を招くようなお勧めは行いません。
- お客様にとって、ご都合の悪い時や場所などでのお勧めを行いません。
- お客様に適切なお勧めができるよう、商品知識の習得に努めます。

本勧誘方針は、確定拠出年金法上の「企業型年金に係る運営管理業務のうち運用の方法の選定及び加入者等に対する提示の業務」及び「個人型年金に係る運営管理機関の指定もしくは変更」に関して準用いたします。

個人情報保護への取り組み

平成17年4月1日より施行された「個人情報の保護に関する法律」に対する取り組みとして、プライバシーポリシーを策定し、ホームページに公表しております。あわせて、個人情報保護に関する法令等を遵守するため各種規程・マニュアルの制定・改定を行ない、お客様の個人情報を適正かつ厳格に管理できる態勢を整備しております。

個人情報に関するお取扱いに関してご不明の点等がございましたら、右上記窓口へお問い合わせください。

【株式会社きらやかホールディングス 経営管理グループ】

所在地	〒990-8578 山形市旅電町三丁目2番3号
電話番号	023-628-3944(代)
受付時間	平日 午前9時～午後5時

【株式会社殖産銀行 事務部】

所在地	〒990-8654 山形市桜町7番35号
電話番号	023-623-8111(代)
ファックス	023-625-8739
受付時間	平日 午前9時～午後5時

【株式会社山形しあわせ銀行 コンプライアンス部】

所在地	〒990-8611 山形市旅電町三丁目2番3号
電話番号	023-631-0001(代)
受付時間	平日 午前9時～午後5時

環境への取り組み

きらやかフィナンシャルグループは、事業活動での環境負荷を減らす活動を続けるとともに、地域に根ざした金融グループとして地域の環境保全活動のサポートに取り組んでいきます。

組織的な取り組みを効果的かつ効率的に行なうため、既に「ISO14001」の認証を取得している山形しあわせ銀行を母体として、きらやかホールディングスと殖産銀行とを加え、行動を拡大していく計画です。

「ISO14001」とは、ISO(国際標準化機構)が制定した環境マネジメントシステムのことです。PLAN(計画)-DOX(実行)-CHECK(分析)-ACTION(見直し)のサイクルを通じ、当グループが事業活動の中で環境に与える影響を把握し、環境への負荷を減らせるよう継続的な改善を目指します。

自然環境に恵まれた山形県に基盤を置くきらやかフィナンシャルグループは、事業活動による環境負荷を低減させるために、環境保全活動を通して持続可能な社会の形成に努めてまいります。

【方針】

- 金融商品や情報の提供により、環境保全に取組むお客様を支援し、地域社会環境の改善に貢献します。
- 環境関連法規制及び環境に関する条例や協定等を順守し、環境に配慮した活動を推進します。
- 環境方針を基に実践するため、環境目的、環境目標を設定し、定期的に見直しを行います。
- 環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防に努めます。
- 環境方針を全従業員に周知徹底し、環境保全に配慮して行動します。

この環境方針を内外に公開します。平成18年4月1日
きらやかフィナンシャルグループ(株式会社きらやかホールディングス、株式会社殖産銀行、株式会社山形しあわせ銀行)
代表取締役 長谷川 憲治 / 代表取締役 澤井 誠介

ISO認証取得支援

山形しあわせ銀行では、環境マネジメントシステムの構築を通じて、企業の問題点を浮き彫りにし、解決に結びつけるお手伝いをしております。支援方針として、ISOを企業の看板目的とするのではなく、ISOの本質である、その企業実態に合わせたマネジメントシステムの構築を心掛けております。



ISO取得支援セミナー(ISO内部監査員養成セミナー)

コンサルティングポリシー

- ISOの認証を最終目的とせず、企業実態に合わせ、運用可能かつ有効なシステム構築を目指します。
- その為には、コンサルティング実施回数に制限を設けません。
- コンサルティング実施の時間帯を、可能な限りお客様に合わせます。
- マネジメントシステムの構築を通して、経営者、従業員の意識改革を促すコンサルティングの実施を心掛けます。
- 短期間での認証取得を目指します。

金融犯罪対策への取り組み

偽造・盗難キャッシュカードや振込め詐欺等により、お客様のご預金が不正に引き出される被害が多発しています。被害に遭わないためにも、キャッシュカードや暗証番号のお取扱いには十分ご注意ください。

きらやかフィナンシャルグループでは、被害の防止策として以下のような取り組みを行っております。

偽造・盗難カード対策

- 覗き見を防止するため、ATMに遮光フィルターもしくは覗き見防止ボード、後方確認鏡を設置しています。
- 1日あたりのATMでのご利用限度額(1日あたり100万円)を設定しています。
- ATMご利用限度額は、本支店窓口で変更することができます。ATMでの変更受付についても、順次機能を追加し開始しています。
- ATMで暗証番号の変更ができます。
- 暗証番号に生年月日・電話番号など他人に類推されやすい数字を使用しないよう、注意喚起を行なっています。
- 万一被害に遭われたお客様に一定の基準で補償を行ないます。

万一、紛失・盗難に遭われた場合には、直ちに下記までご連絡ください。

【殖産銀行】

ご連絡先	受付時間帯
お近くの当行本支店	平 日 / 8:45～17:00
CD監視センター TEL: 023-631-6744	夜間・早朝 / 17:00～8:45 土・日・祝日 / 0:00～24:00

【山形しあわせ銀行】

ご連絡先	受付時間帯
山形しあわせ銀行テレホンセンター TEL: 023-622-7028	平 日 / 9:00～17:00
自動機監視センター TEL: 023-631-8477	平 日 / 8:00～21:00 夜間・早朝 / 21:00～8:00 土・日・祝日 / 0:00～24:00

本人確認

口座開設や大口の現金取引等の銀行取引を行なうにあたって、運転免許証など所定の公的証明書により本人確認を行なっております。

各種お問い合わせ先

【殖産銀行】

ご意見・ご要望など / お客様サービスセンター
電話: 023-623-8111(代) 受付時間: 平日 午前9時～午後5時
ホームページ: <http://www.shokusan.co.jp/>

商品・サービスに関するお問い合わせ
フリーダイヤル: 0120-681075 受付時間: 平日 午前9時～午後5時

ローンに関するお問い合わせ
フリーダイヤル: 0120-604930
受付時間: 平日・土・日 午前10時～午後6時(祝日を除く)

【山形しあわせ銀行】

ご意見・ご要望など / しあわせテレホンセンター
フリーダイヤル: 0120-32-4415 受付時間: 平日 午前9時～午後5時
ホームページ: <http://www.shiawase.co.jp/>

商品・サービスに関するお問い合わせ
フリーダイヤル: 0120-32-4415 受付時間: 平日 午前9時～午後5時

ローンに関するお問い合わせ
フリーダイヤル: 0120-44-8912
受付時間: 平日 午前9時～午後8時 土・日・祝日 午前10時～午後5時
(休業日 12/31～1/3、5/3～5/5)



いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

CSRへの取組み

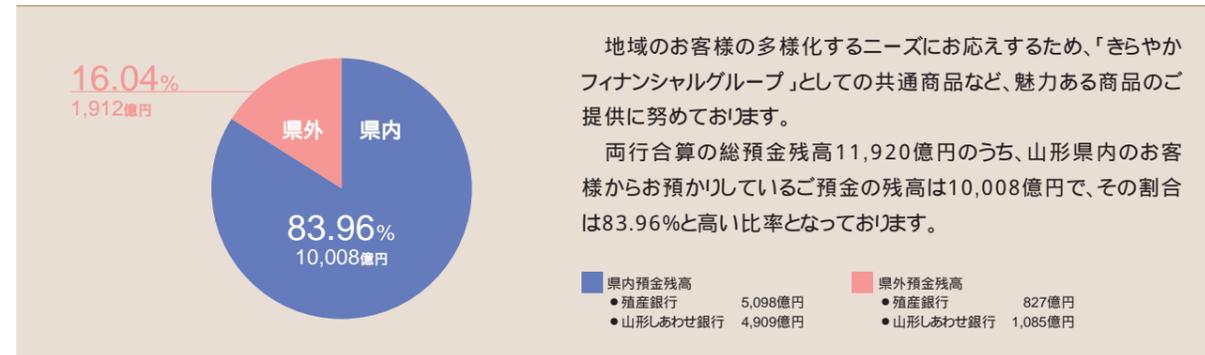
Kirayaka Financial Group

地域の皆様と共に / きらやかフィナンシャルグループ

お客様とお取引構成

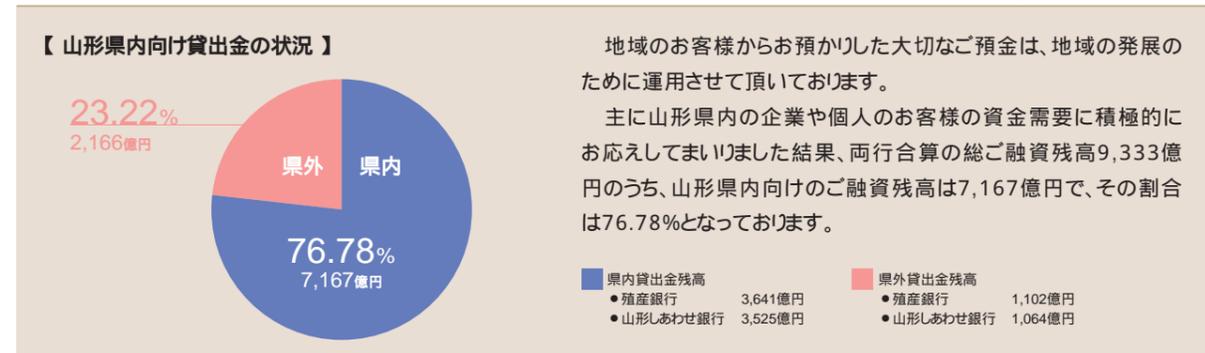
預金の状況

(両行合算、平成18年3月末現在)



貸出金の状況

(両行合算、平成18年3月末現在)



(両行合算、平成18年3月末現在)



金額は単位未満を切り捨てて表示しております。
比率は小数点第3位を四捨五入して表示しております。
預金には譲渡性預金を含みません。

地域密着型金融推進計画への取組み

平成17年度および平成18年度の2年間を重点強化期間と定め、**①事業再生・中小企業金融の円滑化** **②経営力の強化** **③地域のお客様の利便性向上**を3つの柱とした「地域密着型金融推進計画」を、平成17年8月に策定しました。

本計画の進捗状況につきましては、ホームページ上で公表しております。

【殖産銀行ホームページ】
<http://www.shokusan.co.jp/>

【山形しあわせ銀行ホームページ】
<http://www.shiwase.co.jp/>

経営改善支援の取組み実績

【殖産銀行】

平成17年度(17年4月～18年3月)

	期初 債務者数	うち経営改善支援 取組み先	のうち期末に債務者区分が 上昇した先数 変化しなかった先	
			上昇した先数	変化しなかった先
正常先	4,881	0	0	0
要注	1,122	161	36	120
意先	78	13	1	11
破綻懸念先	113	23	2	19
実質破綻先	100	1	0	1
破綻先	61	0	0	0
合計	6,355	198	39	151

【山形しあわせ銀行】

平成17年度(17年4月～18年3月)

	期初 債務者数	うち経営改善支援 取組み先	のうち期末に債務者区分が 上昇した先数 変化しなかった先	
			上昇した先数	変化しなかった先
正常先	5,296	0	0	0
要注	830	131	11	114
意先	45	27	3	24
破綻懸念先	127	7	0	7
実質破綻先	72	0	0	0
破綻先	74	0	0	0
合計	6,444	165	14	145



ビジネスマッチング

きらやかフィナンシャルグループは、地域経済を支える地元企業の皆様のビジネスチャンス拡大をお手伝いしています。平成17年度は2度のビジネスマッチングを開催いたしました。

経営統合を記念して10月に開催した大商談会では、県内外から売り手企業287社・買い手企業53社が参加し400件以上の商談が行なわれたほか、ご来場者も4,000名を超えるなど東北最大規模の商談会となり、大変なご好評を頂きました。



花笠祭りへの参加

毎年8月5日から7日までの3日間開催され、山形の夏の夜を華麗に彩る「山形花笠祭り」。平成17年8月5日、殖産銀行・山形しあわせ銀行両行の行員による総勢300名の踊り手が、きらやか花笠愛好会として花笠祭りに参加いたしました。沿道のお客様を巻き込んでの「ヤッショ、マカショ!きらやか!」の掛け声と共に、祭りを大いに盛り上げました。





いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

CSRへの取組み

Shokusan Bank

地域の皆様と共に / 殖産銀行



殖産銀行青年経営者大学校

殖産銀行青年経営者大学校

平成2年1月の設立以来、地域経済の明日を担う地元企業の若き経営者・後継者等を対象に、起業家精神の醸成と、それを実現し得る経営能力の修得を目的とした講座を開催しております。

これまでに卒業された方々は延べ231名を数え、現在各方面で活躍しておられます。

財団法人殖銀あすなろ育英会

地域の将来を担う人材の育成を目的に、育英資金を貸与しております。対象者は、山形県内に在住または本籍が山形県内にある学生たちです。これまでに、延べ362名の方々にご利用いただいております。

財団法人殖銀あすなろ振興会

学術の振興や社会福祉の向上、交通安全や生活環境の整備を助成するため、県内を中心に各種学校・団体・施設等への寄贈を行っております。

昨年度は、教育振興関連6先、社会福祉関連2先、交通安全関連1先の合計9先へ寄贈を行いました。



銀行ってな～に?体験学習会

山形美術館の入館料負担

地域の文化や芸術の振興に役立つことを願い、小・中学校の児童生徒を対象に、原則毎月2回、山形美術館への入館料を当行で負担しております。

銀行ってな～に?体験学習会の開催

当行は、地域における金融教育活動に参加させて頂くことも大切な使命であると考え、地域の幼稚園児、小・中学生、高校生を対象に、銀行業務についての体験学習会を随時開催しております。

「起業家教育」へのご支援

平成15年山形県の「21世紀起業家精神醸成プロジェクト」における「起業家教育モデル校」の指定を受け、以来3年間「起業家教育」に取り組んできた山形市立第八中学校。

当行は当初より「事業計画書の作成から、事業資金融資を受けるためのプレゼン、起業、決算書作成と手形決済」まで、起業に関する学習のご支援を行ってまいりました。



CSRへの取組み

Yamagata Shiwase Bank

地域の皆様と共に / 山形しあわせ銀行



「くらしの文集」の発行

(財)山形しあわせ銀行教育振興基金

教育振興への寄与を目的に、昭和58年に設立。図書教材の寄贈をはじめ学校教育施設や教材・教具の整備・助成に努めてまいりました。

くらしを見つめ、考えたこと、感じたこと、経験したことなどを文章に表現することによって、子供たちの生活に潤いを持たせ、作文力の向上を図ることを目的に、毎年、山形県内各地の小中学生から作文を募集し、しあわせぎん「くらしの文集」を発行しております。

(財)山形しあわせ銀行産業振興基金

地域産業発展への寄与を目的に、平成元年12月に設立。県内企業に対して「しあわせ産業賞」「ベンチャービジネス奨励賞」等の表彰及び助成を行い、中小企業の育成に努めております。

「青年経営者セミナー」の開催

21世紀の地域経済の発展を担う若手経営者を対象に、毎年多彩な講師陣を招き開催しております。

平成18年度で20回目となりました。次代の経営感覚やビジネスプランのご紹介など、様々な角度からより有益な情報を提供してまいりたいと考えております。



「しあわせ会経営者合同懇談会」の開催

お取引先企業の経営者を対象に開催しております。31回目となった平成17年度は、講師に杏林大学の田久保忠衛氏を迎え、「最近の国際情勢と日本」と題して講演いただきました。

「貿易ミッションの会」の活動

貿易取引、外為取引企業のお客様を会員として組織し、お役に立つ情報の提供、情報交換のサポートをすることを目的に、講演会、研修会、海外視察等を行っております。

国際化するお客様のニーズにお応えするために、ビジネスチャンス拡大のお手伝いをしてまいります。



「しあわせ杯家庭婦人バレーボール大会」の開催

スポーツ活動を通じて、地域の皆さまとのコミュニケーションを大切に開催しているこの大会も、平成18年で13回目となりました。

県内8つの強豪チームが参加し、当行体育館で熱戦が繰り広げられました。

同時に、「しあわせぎん9人制バレーボールクリニック」を開催し、当行バレー部員が技術指導しております。



「山形しあわせ銀行杯リトルリーグ野球・秋季大会」の開催

平成17年で22回目を迎えた山形しあわせ銀行杯リトルリーグ野球・秋季大会は、山形県内外の10チームで優勝を競いました。

また、当行硬式野球部員による野球教室も開催いたしました。次代を担う子供たちの健康づくり・夢づくり・しあわせづくりを応援しております。



グループTOPIX

Kirayaka Financial Group

トピックス① きらやか感謝預金キャンペーン

きらやかフィナンシャルグループでは、日頃のご愛顧に感謝を込めて、平成18年9月29日(金)まで「きらやか感謝預金キャンペーン」を実施中です。

ATM定期預金の金利優遇!

対象：個人のお客様

お預け入れ期間：6ヶ月、1年、2年、3年、4年、5年

期間中、ATMでお預け入れいただいた定期預金の金利を店頭呈示金利に上乘せします。

[例えば...]お預け入れ期間1年もので、総合口座10万円以上の場合

年 **0.4%**
(税引後 年0.32%)

平成18年7月12日現在

【ご注意】

- 初めてATMで定期預金をお預け入れ頂く場合、事前に窓口での新規口座開設等の手続きが必要となります。
- 本人確認法の施行により本人確認がお済みでないお客様は、ATMでの定期預金のお預け入れが出来ない場合がございます。
- ATMのご利用時間は、一部店舗により異なります。

きらやか感謝定期預金の金利優遇!

対象：50万円以上お預け入れいただいた個人のお客様

お預け入れ期間：2年、3年、5年

期間中、きらやか感謝定期預金をお作りいただくと、金利を優遇します。

2年 年 **0.4%**
(税引後 年0.32%)

3年 年 **0.5%**
(税引後 年0.4%)

5年 年 **0.8%**
(税引後 年0.64%)

投資信託 + 定期預金のセットで定期預金の金利優遇!

期間中、投資信託のお申込み + 定期預金を
お作りいただくと、定期預金の金利を優遇!

対象：投資信託10万円以上をご購入された個人のお客様

お預け入れ期間：1年

投資信託
MMF・公社債投信・
積立投信を除く
取扱全ファンド

+

定期預金
お預け入れ期間1年で
同時お申込みの投資信託
購入額と同額まで

定期預金
金利 年 **0.3%**
(税引後 年0.24%)

【投資信託ご購入時のご注意】

投資信託は預金保険の対象ではありません。投資信託は預金と異なり、元本および利回りの保証はありません。株式、公社債などの値動きのある有価証券(外国証券には為替リスクもあります)に投資しますので、投資した資産価値の減少を含むリスクは投資信託をご購入のお客様が負うことになります。ご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。投資信託の設定および運用は投資委託会社が行います。投資信託のお申込み時には手数料ならびに運用期間中は信託報酬等がかかります。(詳しくは各商品の「目論見書」をご覧ください)お申込みの際は、目論見書をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。

本商品は、預金保険制度の対象となります。中途解約は原則としてできません。ただし、やむを得ず中途解約される場合は、所定の中途解約利率をお預け入れ日に遡って適用させていただきます。満期日以降の金利は継続日時点の店頭呈示金利となります。上記金利優遇サービスは、他の金利等優遇商品との併用はできません。金利情勢の変化などにより、上記金利優遇サービスと商品の取り扱いを中止または変更する場合がございます。店頭にて「商品概要説明書」をご用意しています。

トピックス② 投資信託 きらやかグローバル好配当株式オープン

- 世界(含、日本)の好配当株を主要投資対象とします。
- 原則として3ヶ月毎の分配を目指します。
- 原則として為替ヘッジは行いません。

お申込みの際は、目論見書をお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
投資信託の運用実績は、市場環境等により変動しますので元本保証はありません。